

麻酔科・疼痛制御科プログラム

【研修目標（内容）・到達目標】

卒後3年目以降の麻酔科研修(レジデントA, B, C)では、厚生労働省認可の麻酔科標榜医及び日本麻酔科学会認定の麻酔科認定医、さらには日本麻酔科学会の麻酔科専門医研修プログラムに沿って麻酔科専門医の資格の取得を目指します。

麻酔科専門医研修プログラムは兵庫医科大学病院を責任基幹施設とし、基幹研修施設(宝塚市立病院)および関連施設(明和病院、三田市民病院、兵庫医科大学ささやま医療センター、兵庫県立こども病院、六甲アイランド甲南病院、近畿中央病院、明石市立市民病院、神戸中央病院)の病院群が協力して、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識と技術を持ち、協調性と意欲に富んだ麻酔科専門医を育みます。

心臓麻酔、産科麻酔、小児麻酔などの特殊麻酔から、集中治療、緩和ケアまで、幅広い研修が可能です。

日本麻酔科学会・麻酔科専門医研修プログラム

<http://hyomed-anesthesiology.info/training/second-pg.html>

研修期間

麻酔科標榜医取得まで	レジデントA, B
専門医取得まで	レジデントC以降

研修内容

- ① 麻酔科学全般、周術期管理
- ② 緩和ケア及び疼痛管理
- ③ 重症患者の集中治療

研修進度とレジデントの希望に沿って緩和医療・ペインクリニック科(ペインクリニック部)、ICU、あるいは協力病院で研修します。

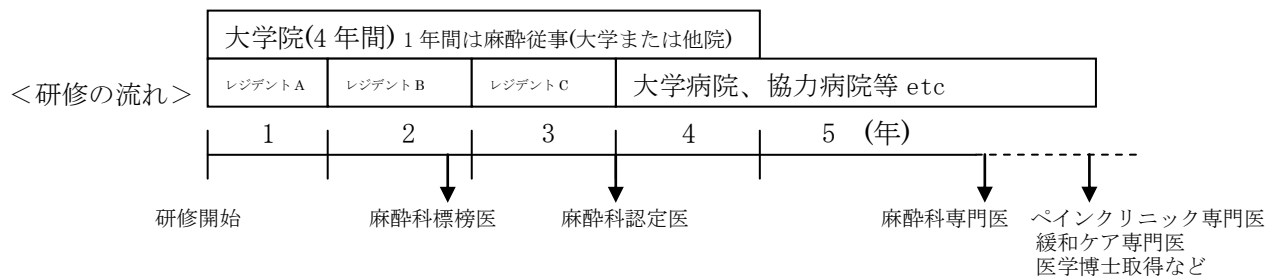
大学院への入学

希望者に広く門戸を開いています。4年間の間に臨床麻酔の研鑽と、当科あるいは基礎医学講座と共同で麻酔科学に関連したテーマで研究を行う事もできます。(1年間は麻酔業務に従事)

大学院の夜間コースを選択すれば、レジデントまたは病院助教として院内勤務する事ができます。(週4日の臨床業務と週1日の院外研修)

<備考> 取得資格

- 麻酔科標榜医**：麻酔指導病院で2年間の麻酔科研修(初期研修での麻酔科ローテーション期間も含む)を行えば取得できます。
- 麻酔科認定医**：日本麻酔科学会認定資格です。学会員が麻酔科標榜医であり、麻酔管理の研修を認定病院で24か月以上(医師免許取得後)行えば取得できます。
- 麻酔科専門医**：麻酔科専門医研修プログラムに4年以上参加し、日本麻酔科学会の行う筆記、口頭、及び実技試験に合格すると取得できます。



【レジデントA(卒後3年目)カリキュラム】

さまざまな臨床麻酔を経験する事により、全身管理の技術と知識を深めると共に麻酔の基礎知識を習得します。麻酔科専門医獲得の目安にした目標症例数(重複あり)は以下です。不足した症例は協力病院などで研修を行います。

全身麻酔 吸入麻酔	150 例
全身麻酔 完全静脈内麻酔	50 例
脊椎クモ膜下麻酔	30 例
硬膜外麻酔	20 例
超音波ガイド下末梢神経ブロック	20 例
開腹外科手術	20 例
胸部外科手術	30 例
心臓血管外科手術 (人工心肺使用)	30 例
小児外科手術	40 例
帝王切開術	20 例

【レジデントA(卒後3年目)の他部署研修について】

総合診療能力のスキルアップのため、ICU、救命救急センターのいずれかで、希望により3ヶ月間研修を行うことができます。

【レジデントB(卒後4年目)カリキュラム】

麻酔科を標榜または麻酔科専門医を目指す医師の研修コースであり、レジデントAに続きレジデントBで上記の症例を1年間経験すると麻酔科標榜医の資格が取得できます。緊急症例とハイリスク症例を指導のもと経験します。この時点で経食道心エコーの認定試験である JB-POT に合格する医師も多数います。

さらに麻酔科専門医に加えて、ペインクリニックなどサブスペシャリティー確立に向けて、慢性疼痛と緩和ケアの研修を行います(兵庫医科大学ペインクリニック部)。

AIP 研修プログラム (Anesthesia, Intensive Care, Pain Clinic)(レジデントA, B相当)

手術麻酔による全身管理(1年間)、集中治療(6ヶ月)、ペインクリニック(6ヶ月)の基礎を2年間で習得できます。「将来他診療科に進みたいが、全身管理や疼痛管理を学んでおきたい」という方にも門戸を開いています。

【レジデント C(卒後 5 年目)カリキュラム】

上級医の指導のもと手術室運営のプランや麻酔計画立案を行います。全分野の麻酔を症例により指導医師として経験し、他診療科との症例検討のイニシアチブをとります。

レジデント C では、短期の海外病院研修(インディアナ大学)や国際学会参加(米国麻酔科学会 ASA、IARS、ESA、韓国産科麻酔学会)、発表などを経験していただきます。経食道心エコーの米国での認定試験である PTEeXAM 取得を目指すこともできます。

希望により、大阪府立母子保健総合医療センター、国立循環器病センター、社会保険紀南病院、長野県立こども病院、等の他の施設で、より専門的な麻酔・集中治療の研修を行っています。

【カンファレンス・症例検討会・セミナー】

月～金 7:50～ 朝の勉強会

レジデントは原則 2 回程度/月に担当

8:00～ 術前症例検討会

土(第 1, 3, 5 週)

9:30～ 研修医からの質問勉強会

上級医の指導のもと、レジデントが司会、運営を行います。

10:00～ 医局会、抄読会

10:30～ 重症症例術後検討会

その他 手術室で働くスタッフのための勉強会(不定期)

各種シミュレータを用いた

DAM セミナー

中心静脈カテーテルセミナー

高機能患者シミュレーション(HPS)

エコーガイド下神経ブロックセミナー

食道心エコーセミナー(すべて院内)

産科麻酔シミュレーション(SIMMAN)

Changing Practice of Anesthesia 兵庫医科大学・福井大学・京都府立医科大学・和歌山県立医科大学合同研究会(院内、院外 年 1 回)

日本麻酔科学会関西地方会(院外)

日本麻酔科学会関西支部症例検討会(院外 年 3 回)

近畿麻酔シンポジウム(院外)

産科麻酔プロフェッショナルセミナー「産科麻酔に参加しよう」(院外)

KANSAI 産科麻酔(院外)

【学会】

レジデント A の時点で日本麻酔科学会に入会すれば、将来認定医及び専門医の取得申請ができます。レジデント以降も継続して麻酔科に勤務する事により、麻酔科専門医の取得が可能です。レジデント A は日本麻酔科学会総会、日本臨床麻酔学会学術集会に原則参加します。

レジデント A と B の研修期間中に日本麻酔科学会、日本麻酔科学会関西地方会、日本臨床麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本集中治療医学会、日本産科麻酔学会いずれかでの学会発表を行います。発表については上級医が指導いたします。

そのほかの学会の年次総会にも積極的な参加・発表を推奨しています。

【論文発表】

麻酔科学領域の邦文または英文雑誌への学術論文を投稿します。レジデント A、B の期間での発表を目標にしています。学会発表と論文発表は専門医取得のための業績として必須です。

【関連病院】 卒後 3 年目以降の臨床研修として派遣実績のある病院です。

宝塚市立病院、明和病院、三田市民病院、兵庫医科大学ささやま医療センター

【指導医】

主任教授：廣瀬 宗孝（麻酔科診療部長、指導責任者）

教授：多田羅 恒雄（麻酔科診療副部長）

准教授：狩谷 伸享

講師：植木 隆介（麻酔科医局長）、岡野 紫、下出 典子（中央手術センター）

助教：中本 志郎、二木 美由希、日比 喜子、棚田 大輔（ペインクリニック）、

助永 憲比古（ペインクリニック）

【研修統括者】

准教授：狩谷 伸享

【問い合わせ先】

多田羅 恒雄 ttatara@hyo-med.ac.jp

または

狩谷 伸享 nkariya@hyo-med.ac.jp

TEL: 0798-45-6392